

番号	3		事業名	水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)		市町村名	飯田市		路河川名	箇所名(ふりがな)		南信濃(みなみしなの)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○当該地は、平成19年7月の豪雨により、市道へ土砂が流出するなどの被害があり、荒廃した溪流や山腹の復旧について地域から治山事業の要望があった。</p> <p>○事業計画時点で地域住民説明会を開催するとともに、事業期間においても地元からの要望や災害発生状況に応じて事業計画を変更して対応した。</p> <p>○平成21年8月発生の駿河湾の地震により国道へ落石が発生したため、落石対策工事等を増工。また、平成23年7月に区域内の(一)河川小池川右岸で山腹崩壊が発生し、河川を閉塞したため、下流域の安全対策を目的に山腹工事等を増工した。</p>												事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
	<p>○山腹崩壊に伴い土砂が下流の河川や集落へ流出する危険性に対して、崩壊地の復旧事業を行ったことにより土砂の流出が防止されている。</p>												B		
事業目的	<p>○当該地域は地形が急峻で地質が脆弱のため、継続的に事業を実施してきたが、新たに溪流や山腹の荒廃が確認されることから、溪間工や山腹工を施工することにより荒廃地の復旧を図るとともに、区域内の荒廃した森林を整備して健全な林分へ誘導することにより、災害に強い森林を造成する。</p>												施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
事業概要	当初工期	H20~H23	費用対効果(当初時)	3.70	事業費(千円)	財源内訳(千円)						施設の維持管理状況	<p>○治山施設管理者が定期的に維持管理を行っており、施工された施設に異常は確認されない。</p>	B	
	最終工期	H20~H25	費用対効果(評価時)	2.73	<small>上段:当初/下段:最終 ()は国補事業分で内数</small>	国庫	その他	県債	一般財源						
	当初計画内容(主な工種)	荒廃林の整備:A=20.00ha 谷止工:N=2個 山腹工:A=0.15ha		96,900	48,450	0	43,000	5,450	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)				評価		
	最終事業実績(主な工種)	荒廃林の整備:A=16.38ha 谷止工:N=2個 山腹工:A=1.19ha		311,182	155,591	0	140,000	15,591	○地元自治会からは、以下のとおりの評価が得られている。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年前後はこの地域では雨が多かったが、崩壊地等の復旧工事をやってもらい助かった ・当時要望した箇所は全部やってもらえたのでありがたかった ・平成25年度以降はこの地域で大きな災害等はなくなって助かっている 				A		
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>○計画期間内における地震、豪雨等の災害発生により、落石や山腹の崩壊などが発生したため、災害対策等を行うため事業期間を延長した。</p> <p>○被災箇所が国道や市道などライフラインであり、崩落箇所の下流に集落があるなど、地域住民の生活に影響を及ぼすおそれがあるため、地域住民の安全・安心のため事業期間を延長して実施した。</p>												④地域住民等の評価		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>○計画期間内における地震、豪雨等の災害発生により、落石や山腹の崩壊などが発生したため、災害対策等により事業費が増加した。</p>												改善措置の必要性	○修繕等は特になし	
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)										評価	B			
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○溪間工により不安定土砂190m3を固定するとともに、山腹工により1.19haの崩壊地を復旧し拡大崩壊を防止した。また、森林整備(本数調整伐、植栽)により16.38haの保安林の土砂災害防止機能が向上した。</p> <p>○事業実施後、新たな土砂災害等は発生していない。</p>											今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○今後の降雨により土砂が継続的に流出した場合、施工した谷止工に土砂が異常堆砂し下流へ流出する恐れがあるため、定期的な施設点検を行う必要がある。</p> <p>○特に、人家に近接している箇所については定期点検を実施するとともに、豪雨時には緊急点検を実施し、適正な維持管理を行う。</p> <p>○また、今後の事業実施に当たっては、計画段階から地域住民と維持管理等の協議を行い、地域住民による簡易的な維持管理を促すなど地域協働による事業の実施を促進する。</p>	
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○事業の実施により、地域の安全・安心な生活環境や自然環境の保全等に寄与している。										林務部公共事業評価委員会の意見	<p>○荒廃溪流等の復旧や森林整備により、土砂災害や山地災害の未然防止、防災機能の高い森林への誘導が図られており、地域住民の評価が高いなど、総合評価Aが妥当と判断する。</p>	総合評価	A
												長野県公共事業評価委員会の意見	○林務部公共事業評価委員会の意見が妥当であると判断する。	県の評価案	妥当
												評価監視委員会意見	妥当		
												評価の決定	A		